

コロナ禍であっても、私たちの日常には大切なお年寄りとのお別れがあります。面会や外出を自粛しなくてはならない現状であっても、はやり最期はその人らしく人生の最後を全うしていただきたいという想いに変わりはありません。今回のかけがえのない日々は、コロナ時代であってもその人らしく最期を迎えた福田静江さん、若山ふみ子さんです。

福田静江さんは、息子さんより寄稿文をいたしました。福田静江さんは、若山ふみ子さんです。えられた福田静江さん、若山ふみ子さんです。福田静江さんは、息子さんより寄稿文をいたしました。

## かけがえのない日々 ～最期までその人らしく生きる～



施設の行事にもご家族でよくご参加していただきました。



大好きな冰川きよしさんのコンサートには2回出掛け、毎晩DVDを観て眠るのが日課でした。

迎えられた福田静江さんは、今から3年前に入居されました。穏やかで社交的で、お出掛けが大好きな静江さんとの時間はとても楽しく、私たちにも思い出いっぱいの3年間となりました。息子さんをとても頼りにされていました。静江さん。面会にも頻繁に来ていただき、武光観光をはじめ、息子さんと一緒にたくさんの思い出もされました。そんな静江さんが大好きな息子さん。福田克己さんから寄稿文をいただきましたのでご紹介致します。

認知も進み、自宅での介護が困難と感じ、3年前すずの郷の力を貸して頂くことになりました。そこで生活は優しい介護士さん達のお陰で、楽しく平穏な日々を過ごさせて顶きました。自宅にいれば、一人で

じつと自室にこもる生活ですが、すずの郷ではいろいろな所への外出、施設内での様々な催し、自宅にては絶対経験できない体験を催して頂きました。スキー場でのゴンドラ、温泉施設で着た水着、お相撲さんのだっこなど人生初体験ばかり。

大好きな冰川きよしのコンサートにも連れて行つていただきました。自宅にては家族以外の人と話をする機会がなかなかありませんでしたが、すずの郷では優しいお友達に恵まれ交流ができました。皆さんから「しいちゃん、いいちゃん」と子どもの時の呼び方で呼ばれ嬉しそうでした。手放せなかつた睡眠導入剤の中止や紙パンツ不使用など驚きました。

（福田静江さん息子さん 福田克己様）

【若山ふみ子さん】101歳の若山ふみ子さんは、100歳を超えて、何でも挑戦し、食べるのも大好き。ご自分の身の回りのことはご自分でされ、皆が口をそろえて「若山さんはすごいね」と感心するほどの方でした。お出掛けも大好きで、なばなの里などいろいろなところに外出をし、思い出はたくさんあります。

すが、その中でも母校である相山女学園に出掛けたことが一番心に残っています。いつも満面の笑みで相山女学園を卒業されたことを喜んでいました。80年以上前の学園生活を思い出され、校内を回りながら思い出話をされ

ました。「家に帰りたい」とよく話されました。（福田静江さん息子さん 福田克己様）

【若山ふみ子さん】101歳の若山ふみ子さんは、100歳を超えて、何でも挑戦し、食べるのも大好き。ご自分の身の回りのことはご自分でされ、皆が口をそろえて「若山さんはすごいね」と感心するほどの方でした。お出掛けも大好きで、なばなの里などいろいろなところに外出をし、思い出はたくさんあります。

すが、その中でも母校である相山女学園に出掛けたことが一番心に残っています。いつも満面の笑みで相山女学園を卒業されたことを喜んでいました。80年以上前の学園生活を思い出され、校内を回りながら思い出話をされ

ました。（福田静江さん息子さん 福田克己様）

【若山ふみ子さん】101歳の若山ふみ子さんは、100歳を超えて、何でも挑戦し、食べるのも大好き。ご自分の身の回りのことはご自分でされ、皆が口をそろえて「若山さんはすごいね」と感心するほどの方でした。お出掛けも大好きで、なばなの里などいろいろなところに外出をし、思い出はたくさんあります。

すが、その中でも母校である相山女学園に出掛けたことが一番心に残っています。いつも満面の笑みで相山女学園を卒業されたことを喜んでいました。80年以上前の学園生活を思い出され、校内を回りながら思い出話をされ

ました。（福田静江さん息子さん 福田克己様）

【若山ふみ子さん】101歳の若山ふみ子さんは、100歳を超えて、何でも挑戦し、食べるのも大好き。ご自分の身の回りのことはご自分でされ、皆が口をそろえて「若山さんはすごいね」と感心するほどの方でした。お出掛けも大好きで、なばなの里などいろいろなところに外出をし、思い出はたくさんあります。

すが、その中でも母校である相山女学園に出掛けたことが一番心に残っています。いつも満面の笑みで相山女学園を卒業されたことを喜んでいました。80年以上前の学園生活を思い出され、校内を回りながら思い出話をされ

ました。（福田静江さん息子さん 福田克己様）



ご家族の皆様には日々、感染対策において、ご協力を賜り、深く感謝いたします。自粛の中でもお年寄りの皆様には、野菜の収穫や季節のフルーツ、お祭りなど、五感で夏を感じていただこうと、様々な催しを計画しております。暑さも本番を迎えた。どうぞお身体、ご自愛くださいませ。



## 今月のベストショット



今から4年前  
相山女学園校門前にて

ていたことが心に残っています。普段の生活では、書道パフォーマンスがあれば必ず参加

され、体操や歌の行事など何でも参加され、毎週来られていたご家族とは、窓越しにカルタの読み手になれたり、毎週のように会っていたご家族との時間も過ごされました。



トランプや家族と楽しく遊ぶ





武光観光ステイホーム企画として、コロナ禍で、長期にわたってお出掛けを自粛せざるを得ないお年寄りのために、非日常を楽しんでいただけたらという想いで夏の果物を楽しんでいただく「サマーフルーツフェスティバル」を行いました。

武光観光の年間計画では、6月はサクランボ狩りに出掛ける予定をしていたので、今SNSで話題になっているお家で果物狩りを楽しめる『お家狩り』をし、採った果物をパフェなどで召し上がっていただき、季節のフルーツをめいっぱい楽しんでいただきました。

サクランボをはじめ、旬のすいかや枇杷などの果物をスタッフ手作りの果樹園から皆さんに好きな果物を選んで、ご自分の手で収穫していただき、その場で食べていただくと「美味しいね～」と喜んでいただけました。他に、スタッフ手作りのアイスクリームやパフェ、クレープなども召し上がっていただきました。吊るされた果物をじっくり吟味して選ばれる方、口にはおばっって笑顔で召し上がる方、スイーツに目をキラキラされる方など様々なお年寄りの表情がありました。「おなかいっぱいだわ～」「とっても美味しいよ」と声を掛けて下さり、室内で、どのように楽しんでいただけるか、試行錯誤しながら開催しましたが、皆さんの笑顔が溢れる時間となり、スタッフにとっても嬉しい時間となりました。  
(木野哲矢)



## すず縁日 2020

笑顔  
「夏を感じて」

毎年恒例!!すずの郷夏祭りを今年も開催します。未だ収束が見えない新型コロナウイルスの影響により、今年はご家族様、地域の皆さま、ボランティアさんを迎えての夏祭りはできませんが、そんな状況であっても、どのようにしたらお年寄りに夏を満喫していただけるかを考え、現在計画、準備を進めています。

今年は『すず縁日2020』と題しまして、夏祭りのような大規模なお祭りではなく、昭和の懐かしい村祭りをイメージした夏祭りを行います。屋台や盆踊り、恒例の新人スタッフによるファイヤーダンスに打ち上げ花火。今年の夏はどこも、お祭りや打ち上げ花火が中止となってしまいましたが、すずの郷では、距離を取りながら、新時代に合った夏祭りを楽しんでいただきます。

春の初めから外出自粛が始まり、季節はもう夏になってしまいました。皆さんには、この縁日を通して夏を感じて、笑顔になっていただきたいという想いでいっぱいです。一日も早くコロナが収束し、来年はまた、ご家族様と皆で一緒に、夏祭りを楽しめることを願っています。



新人スタッフによるファイヤーダンスの練習に塙本辻夫さんも飛び入り参加  
当日まで楽しみに待っていてくださいね♪



入居者さんに、美味しいケーキなどのスイーツを楽しんでいただく『すずカフェ』

スイーツを作るのも食べるものの大好きということで、メニューを決めるところから提供するまで先輩男性スタッフと相談しながら、今回初めて携わらせていただきました。

普段は自分の好きなものを作つて食べてきましたが、今回はお年寄りのことを考えながら、どうしたら皆さんに楽しく食べていただけるかを考え、今回は旬の桃を使って、桃ゼリーと桃のオムレットケーキを作りました。そして飲み物は、今話題のダルゴナコーヒーを一緒にお出ししました。

皆さんに食べていただけるようにと作る量が多く、時間がかかるてしまい、時間内に準備が終わるか不安な時もありましたが、先輩の協力もあり無事に作り終えることができました。また、お年寄りにお出しした際には「美味しい!」「初めて食べた!!」「ありがとうございます。ご馳走様」と言っていただき、お年寄りの笑顔や美味しいように食べられる姿を見てとても嬉しかったです。4月に入社したばかりですが、貴重な経験をさせていただきました。

(吉井佑斗)



6月の苗植え会で植えた夏野菜の茄子、胡瓜、ゴーヤ、トマトなどが7月に入って、たわわに実りました。ちぎったトマトをしゃぶしゃぶ洗つてそのまま食べた星野勘市さん。長長い長茄子を見てビックリした原佐和子さんはハサミをお上手に持って収穫されました。力

メラを構えると「こんな風でええか」と

と収穫した茄子を片手に持ってポーズを決めてくださったのは入居したばかりの氏永一子さん。「うちでは植木屋をやっていたんだよ」とお話ししながら、採れたて茄子を焼いて、おろしたての生姜醤油で食べました。「柔らかいね、甘いね」「歯がなくてもろけるね」と夕食では煮びたしにしました。わらべ館の子どもたちも苦手なピーマンも自分で収穫したものなら食べられるようです。

8月に入つて胡瓜と茄子はそろそろ終わりを迎えそうですが、トマトやかぼちゃはこれからです。トマトはどんどん摂れるので毎日の収穫が楽しみです。

(山本直美)

